

# 愛隣館研修センターニュース 第64号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail : airinday@sunny.ocn.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

私たちはどないなるん？

## —「障害者自立支援法案」提出の背景—

「障害者自立支援法案」が今も国会で審議されています。様々な課題を抱えた「法案」であります。その一つひとつの課題については、ご存じの方も多いでしょう。今回は、その「法案」の内容ではなく、その「法案」が提案された背景について追ってみたいと思います。

障がい者の自己選択・自己決定を基本理念に支援費制度がスタートして1年半が経過した昨年10月12日。

厚生労働省は社会保障審議会障害者部会において、突如、「今後の障害保健福祉施策について—改革のグランドデザイン案—」を発表しました。

その後、12月27日に「自立支援給付法案」の概要を公表し、翌年2月10日には「障害者自立支援法案」として閣議決定し、国会に提出しました。

私たちに考える隙を与えず、まさに電光石火のごとく、「こと」を粛々とすすめてきたのでした。

**なぜ、そこまでして「こと」を性急にすすめる必要ならなかったのでしょうか？**

はっきりとしているのは、支援費制度発足の初年度に100億円、2年目には250億円の財源不足が厚生労働省の前に立ちはだかったからであります。

この財源不足とは、1998年の社会福祉基礎構造改革から始まる、「施設」から「地域」に、「措置」から「契約」にの流れの中、「ノーマライゼーション」を基本理念に、障がい者自身が自らの生活を自己選択・自己決定できる支援費制度の下で、埋もれていた障がい者のニーズが噴出したことによって起こったものなのです。

しかも、このニーズは今も湧き水のごとく、どんどんと膨れあがってきているのです。

この事態に厚生労働省は、1割の利用者負担と、サービスの利用抑制を提案せざるを得なくなってきたのであります。

**なぜ、このような「こと」が起きるのでしょうか？**

根本的には、政府が打ちだしている「骨太の方針」の一つである「社会保障費の削減」という大きな流れの渦に障がい者福祉もからめとられているからでありましょう。「潜在的国民負担率」（国民が負担している税金と年金や医療保険などの社会保険料、それに財政赤字を加えたものが国民所得に対してどの程度の割合を占めているかを表す指標）を50%に抑制することを決定し、社会保障の財源を大幅に減らすことが、国の既定路線になってしまっているのです。

「障害者自立支援法案」が、どのような形で成立するのかわかりません。しかし、私たちが注視しなければならないことは、この法案が提出された背景について、しっかりと認識しておくことではないでしょうか。

「ガイドライン関連法」「有事法制関連」「テロ特措法」「イラクへの自衛隊派兵」など、日本が再び「戦争のできる国づくり」に向かっている流れと、障がい者が切り捨てられていく流れとは、表裏一体のものであると言っても過言ではないでしょう。

このままでは私たちはどないなるんでしょうか？  
(平田 義)

## 愛隣デイサービスセンター報告

## ■ 村上 兼悟

はじめまして2月からお世話になっている村上兼悟です。僕がここでお世話になってもう4ヵ月。全てにおいて初めての経験ばかりで毎日勉強あるのみです。

この4ヵ月の中での大きな行事が5月25日に行ったデイ・シサム合同初夏のおでかけ企画「淡路ファームパーク・イングランドの丘」でした。



いいお天気でもちいい～

明石海峡大橋を渡り淡路島へ。そしてイングランドの丘に着き、集合写真→昼食、パン作り&自由散策etc. 日ごろできないことをみんなで楽しみました。その時の笑顔は何事にもかえがたいほど、ほんとうに素晴らしいものでした。その笑顔一つだけで企画に携われて心底良かったと思います。



焼きたてパンがあああ!!!

僕がこの世界に入るきっかけになったのは「障がい」を持っている家族がいる事でした。

総勢約80名で観光バスを借り、食事・スケジュール企画する役を先輩方と一緒にやらせてもらいました。何もたいた事はできなかったのですがほんとうにすごく大変だと感じました。

ずっと一緒に育ってきたので「障がい」に対してはあまり意識はしていませんでした。両親が日常の世話をするのを見てきたので家族の介護であれば自信はあるけれど、いざ他人の介護となると僕には無理だと大学を出てからもずっと思っていました。

それから何か会社に勤めました。どこの会社でも表面上ではお客様第一と言われていましたが働いていくうちにやはり利益第一という面が浮き彫りになってきました。

僕の「人を大切にしたい」という思いとのギャップから、やはり自分には人にやさしく接する仕事があるかと痛感させられました。僕自身、小学生時代に股関節の病気を患い2年間入院し車椅子で生活していました。そこで病院併設の養護学校に通っていた経験もあり、様々な特性のある仲間たちと出会え、共に生活したことは今の僕という個人を形成するきっかけとなった、かけがえのない2年間だったと強く思います。ここでのお世話になって日は浅いですが多くの事をスタッフ・利用者から学び、お互いが成長し合い共に歩んでいける素晴らしい場所にいるということが、僕にとって何よりも楽しくもあり、かけがえのない場所だと感じています。

長くなりましたが「当たり前はない」という言葉を忘れずに日々頑張っていると思ってますので、今後ともどうか宜しくお願い致します。

## 重症心身障がい者通所事業B型「シサム」報告

## ■ 長谷川 円香

ひとり一人が大切な存在☆

5月18日(水)、野の百合保育園・空の鳥幼児園とデイケア・シサムの交流会を行いました!!!

今回は私たちデイケアシサムが野の百合保育園へGO!この日は、あいにくの雨('3')でもそんな雨にも負けないくらいの、元気な園児達!こんなどんより天気の日はどうも調子が悪い...でも園児達に負けないぞ!とデイケアシサムメンバー!互いに「こんにちば～」と元気な挨拶がある中、交流会は始まりました。

はじめに、「は～じめまして♪」という歌にあわせて手や足、おしりなどで握手するという自己紹介ゲームをしました。メンバー・園児達は積極的に握手しあい、互いに笑みをこぼしていました(笑)。

その後、絵本読み、そしてメンバーと園児が各チームに分かれ、デイケア・シサムメンバーにちなんだ3択クイズを出題し、答えを出すといった形で行いました。一緒になって考えていく中で、「お兄ちゃん、お姉ちゃん教えて」という声が園児から出たり(\*^o^\*)。

最後に園児達全員に、メンバーがこの日の為に準備し、作成したメダルをプレゼントすると、園児たちは大喜び!

交流会の中で「かみさまからのおくりもの」という絵本を読みましたが、この本は『ひとり一人神様から贈られたそれぞれ違うプレゼントがある。みんな違う事が当たり前、そして、みんなひとり一人大切な存在である』という内容でした。この交流会の時間の中でそれを少しでも感じてもらえた時間となったと思います。

私は、愛隣館に来て3ヶ月(はじめまして☆長谷川円香です)。少し、話はそれてしまいましたが、出会い・縁には、必ず(神の)意図があると思います。それは、到底人間が気付けるレベルではないと思うのですが、人が新しい人に出会うということの意味は、全ては魂が今よりも、輝くためだと思います。一瞬、一瞬の出会いを大切に、今日という出会いに感謝し、感動し、お互いが成長できるように学びあっていけたらと思います。よろしくお祈りします。



## 障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」報告

■ 田中 仰

昨年1年間デイケアシサムで働き、今年度よりゆうりんでも働くこととなった。知的障がい児・者との関わりは、デイケアシサムで働いているときから外出支援を通して携わってきたが、新しい仕事として居宅支援が加わった。

居宅支援では、自宅まで訪問し利用者の楽しみを大切にしながら、家事援助を行っている。本人の食べたい物を聞き、時には「味噌汁にきゅうりとセロリを入れたい」「ヘルパーの手のひらに豆腐をのせて、豆腐を切りたい」などの希望があったりもするが、一緒に調理や掃除を行っている。

外出支援では、医療的ケアの必要な利用者とも関わらせてもらっている。ときどきしながら関わっている様子を他のスタッフに見抜かれることもあった。

ゆうりんでは、さまざまな困難ケースの支援を行っている。ゆうりんの拠点は愛隣館から離れている為、今まではどのような仕事を行っているのかわかりづらいうところが多々あった。しかし、ゆうりんでも働くことによって、愛隣館に

もゆうりんにも互いに大きな役割を果たしていることを実感することができた。

ゆうりんの常勤スタッフは、率先して利用者との支援に関わっているほか、事務仕事、利用者やヘルパーの把握など多くの役割を担っていた。その為、常勤スタッフ一人ひとりが主体的な働きとヘルパーとしての働きをしているという現状に驚かされた。

ゆうりんでも働き始めて3ヶ月、まだ慣れていないこともあり迷惑をかける場面もあるが、新しい利用者に関わらせてもらい、日々の仕事を通してたくさん事を学ばせてもらっている。

最近、子どもうけが悪く(どうやら、おじさんに見られるようで…)、支援中に子どもが泣いてしまうこともあり、そこが少し悩みの種ではあるが、少しでも早く仕事を覚え、安心して利用してもらえるようになりたい。また、デイケアシサムでの経験と、愛隣館へ来る前に勤務していた身体障がい者療護施設での経験を活かしつつ、障がい児・者が将来どのように過ごしていくのかを考えながら、毎日の支援を大切にしていきたい。

## 京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」報告

■ 佐藤 雅裕

「やっぱり愛隣はすごい!(いろんな意味で…)」とつくづく感じている今日この頃です。

初めまして!この4月より支援センター「あいりん」で仕事させてもらっている佐藤です。

以前7年間は、京都市内で某NPOのレスパイトサービス(『遊隣』と同じような)や某社会福祉法人の支援センターや居宅事業所ヘルパーに従事し、昨年は地元大阪に戻って、民間会社で介護保険のケアマネージャーをしていました。

「ふらふらしすぎだ」と思われるでしょうが、その分、多くの経験を積めたメリットもありました(自己弁解にすぎないか…)さすがに民間会社は営利目的なので「業績、売り上げ」の繰り返し…に、利用者第一の僕はついていけなく1年持たずに挫折…打ちひしがれていた僕を拾ってくれたのが平田所長、太田主任でした。例えば、所長や主任とはレスパイトサービスに従事していた頃から関わりがあり、利用者さんのニーズに沿った支援展開に共感を抱いていたこ

とを鮮明に覚えています。あの頃(いくつやねん!)と変わらないお二人の熱い姿に涙、涙でした…

泣ける話(?)はさておき、支援センターのスタッフとして難しいと感じていることは、直接利用者さんと接する機会が多くはないので、家族や関係機関から得た情報を処理・分析し、面談の際にいかにもニーズを読み取れるか、です。

レスパイトサービスに従事していた頃は利用者さんと寝食を共に過ごすことが多く生活に密着していたので、共感でき想いの代弁もしやすかったのに…と嘆きたくなることしばしば…ですが、机上の空論にならないケアマネジメントを常に心掛けていきたいと思っています。

「あいりん」にはいろんなケースが本当によく入ってきます(正直、驚きました!やっぱり愛隣だっ!).介護保険の経験も生かしながら、多くの人との出会いを楽しみに仕事に励みたいと思います。よろしくお祈りします!

## 2005年4.5.6月の活動

- 4/8.9.11.12.13 お花見(デイビス) 春といえば桜!お花見ですよ〜!→  
 5/17 愛隣館施設・事業間連絡会議  
 5/25 初夏のおでかけ in イングランドの丘 焼きたてパンがおいしい!  
 5/27 岩山尚史さんご逝去  
 6/8 デイフェスタ デイビス22施設が2日に分かれて交流の時を持ちました!  
 6/12 SIEA 選考会 2名の研修生がインド・フィリピンの各地へ  
 6/17 同志社女子高校花の日訪問 きれいなお花をありがとうございました  
 6/20 医ケア学習会 玉本見 Dr.をお招きし、医療的ケア(吸引、注入)の学習をします  
 6/22-26 京都ブロッコ沖繩研修 平和行進参加(6.23)、辺野古座込 etc.を通して平和について学習します  
 6/29 「スウェーデンのスヌーズレン」 河本佳子氏 スウェーデンの福祉の現状とスヌーズレンの紹介をお話頂きます

